教授　崔 博憲（Hironori Sai）

研究シーズ

【社会】【国際関係】

専　門

マイノリティ論／社会学／人類学

研究キーワード

マイノリティ／他者／移民／外国人労働者／
タイ山地民／在日韓国朝鮮人

研究テーマ
マイノリティ問題とは？／グローバル化と労働力移動

研究の概要

わたしは、もともとタイ山地民、在日韓国朝鮮人といったマイノリティに注目して、社会学や人類学を中心に領域を横断しながらタイ社会や日本社会の端っこを生きる人びとについて研究をしてきましたが、近年は日本の労働市場の端っこ・底辺を担う外国人労働者にとくに関心を寄せて研究活動を行っています。

日本は植民地を失った戦後、社会の均質化が進みましたが、グローバル化と急激な人口減少に直面するいま、外国人労働者という他者をどのように受け入れ、いかにして彼／彼女たちとともに働き暮らしていくのかという問いに向き合わざるをえなくなっています。ただし、1980年代以降、非正規滞在者や研修・技能実習生、日系人らを安価で代替可能な労働力として活用してきた日本では、働く外国人たちを正規の労働者として、諸権利を持つ一人ひとりの人間としてとらえる意識はまだしっかりと社会に根付いてはいません。他方、労働者を送り出す国々の経済成長による経済格差の縮小、移民や外国人労働者の世界的な需要の高まり等を背景に、国際労働力市場での日本のプレゼンスは大きく変化しています。

このような認識の下、わたしは日本における外国人の受け入れに関する法制度の変遷やその課題を分析しつつ、具体的に外国人労働者が働く現場や彼／彼女たちを送り出す国・地域社会（タイ、ベトナム、ラオス、ミャンマー等）、受け入れや送り出しを実施する機関、外国人労働者を支援する労働組合等の調査を行っております。

セールスポイント

タイ山地民、在日韓国朝鮮人、外国人労働者を中心にさまざまなマイノリティや社会的弱者について学んできました。その際、わたしが大切にしてきたのは、マイノリティの側からマジョリティの側の普通や当たり前、理屈がどのようにとらえられているのという視点です。そうした研究実践は、多様化が進む社会において重要なものだと考えています。

想定される用途・応用例・活用例

・外国人労働者の受け入れや送り出しに関する知見の提供

・企業でのマイノリティや外国人労働者の権利等に関する講習

・自治体が行う在日住民を対象とした調査の企画、実施